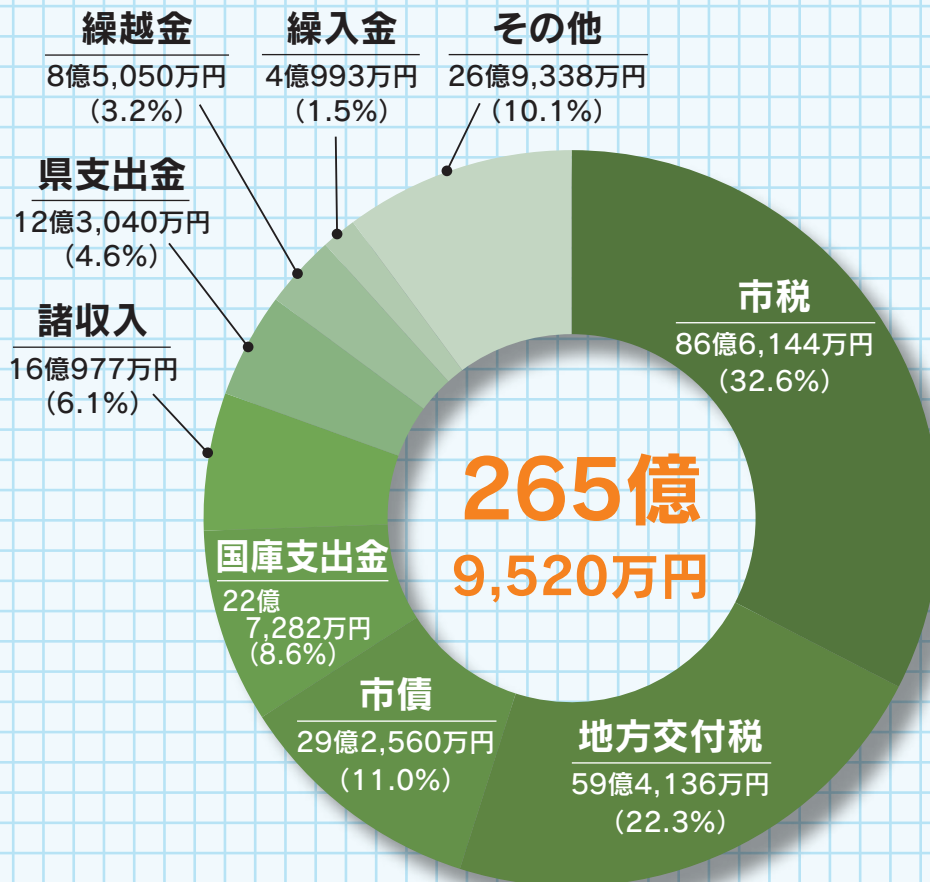


決・算・報・告

令和元年度の決算状況をお知らせします。市では、健全な財政運営が求められる中で、限られた財源を有効かつ計画的に支出し、さまざまな分野において事業を実施しました。皆さんから納めていただいた税金など、市に入ったお金がどのように使われたのか、決算の状況と財政状況を一般会計を中心にをご紹介します。

※一般会計…地方公共団体が市税や地方交付税などを財源として福祉や教育などの行政サービスを行うための会計



01 一般会計

歳入

一般会計の歳入は、265億9,520万円となり、前年度に比べ14億5,405万円増加しました。主な増加理由は、小中学校への空調設備設置のための国庫補助金および市債の増、諏訪東京理科大学の公立化の影響による地方交付税の増、財源不足を解消するため財政調整基金を3億円取り崩したことによる繰入金の増などです。

歳入割合のトップを占める市税は、市民税（個人・法人）や固定資産税の増により、総額86億6,144万円、前年度に比べ8,402万円の増となりました。

? 語句の説明

市 税…市に納めていただいた税金
 地方交付税…国が徴収した税金の一部から、市の財政状況に応じて交付されたお金
 市 債…建設事業などを行うために、国や金融機関から借り入れたお金
 国庫支出金…特定の目的のために、国から交付されたお金
 諸収入…講座受講料や冊子の売上金など、他の科目に分類されない様々な収入
 県支出金…特定の目的のために、県から交付されたお金
 繰越金…前年度から繰り越されたお金
 繰入金…一般会計以外の会計や基金から繰り入れたお金
 その他…分担金および負担金、使用料および手数料、財産収入、寄附金、各種交付金

令和元年度 主な事業(抜粋)



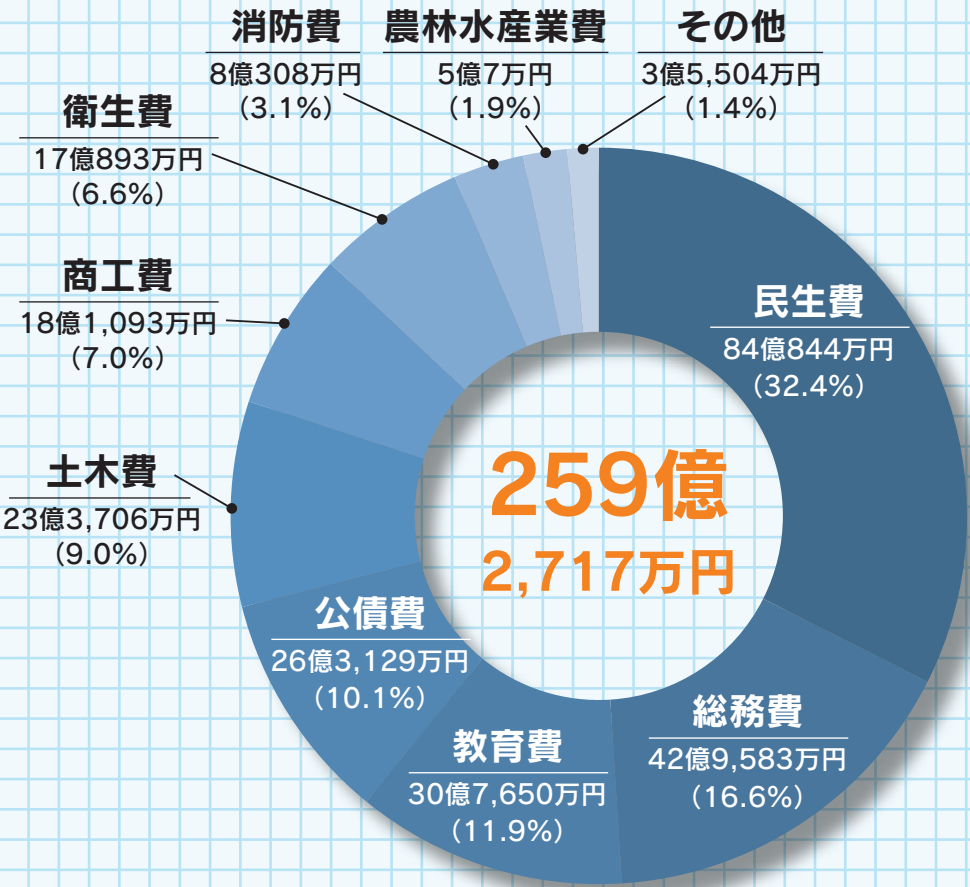
保育園の大規模改修



病児・病後児保育施設の建設



蓼科湖周辺への公衆トイレの設置



02 一般会計

歳出

一般会計の歳出は、259億2717万円となり、前年度に比べ16億3653万円増加しました。歳出の主な増加理由は、小中学校、学童クラブへの空調設備設置による教育費の増、保育園の大規模改修事業による民生費の増、諏訪中央病院への支援拡充による衛生費の増などです。

語句の説明

- 民生費…高齢者・障害者・児童福祉、生活保護などの経費、後期高齢者医療・国民健康保険特別会計への繰出金など
- 総務費…市の全般的な管理事務などの経費
- 教育費…小・中学校の管理運営、生涯学習施設などの経費
- 公債費…市の借金である市債の元金、利子の返済金
- 土木費…道路・河川の新設や改良などの経費
- 商工費…商工業の振興や観光業の振興などの経費
- 衛生費…保健予防、環境美化やごみ処理などの経費
- 消防費…消防、防災対策などの経費
- 農林水産業費…農林業の振興や土地改良などの経費
- その他…議会活動の経費、災害によって生じた被害の復旧などの経費

03 特別会計
企業会計等

※特別会計…特定の事業を行うため、一般会計と区別して管理する会計
※企業会計…原則として独立採算で行う、地方公共団体が経営する企業(公営企業)の会計

会 計 区 分			歳 入 決 算	歳 出 決 算
特別会計	国 民 健 康 保 険		58億9,127万円	57億6,521万円
	後 期 高 齢 者 医 療		7億9,415万円	7億6,408万円
企業会計	水 道 事 業 会 計	収益的	13億6,924万円	10億5,658万円
		資本的	1億1,254万円	7億6,292万円
	下 水 道 事 業 会 計	収益的	23億9,439万円	19億9,675万円
		資本的	3億3,646万円	16億8,754万円
	国保診療所特別会計	収益的	2億1,150万円	2億1,983万円
		資本的	353万円	706万円
財 産 区 特 別 会 計			15億8,122万円	11億8,263万円

04 市債

市の借金残高は268億4,652万円
前年度に比べて約4億円の増加

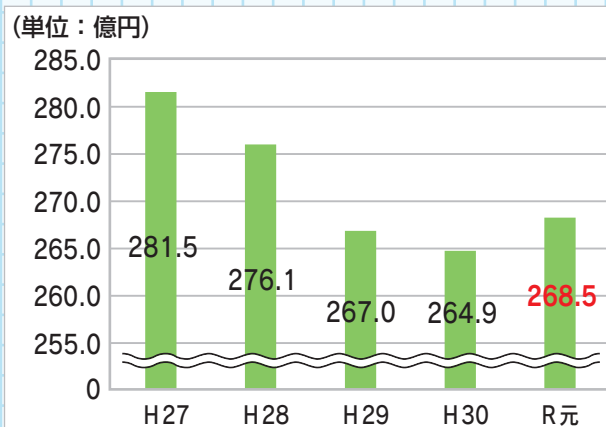
市債は建設事業などを行うために借り入れするお金のことで、多世代で利用する公共施設や道路などのインフラ施設の整備費用を公平に負担する役割も担っています。

令和元年度末の一般会計の市債残高は、公共施設への空調設備の設置のために市債を多く借り入れたことで、返済額よりも借入額が多くなり、前年度から約4億円増加し、268億4,652万円となりました。市債は将来にわたって返済しなければなりません、返済額のうち約6割は、地方交付税として毎年の返済額に応じて国から市へ交付されます。



市民1人当たりの借金
約48万円

●一般会計の市債残高の推移



05 基金

基金残高は40億7,450万円
前年度に比べて約3億円の減少

基金は、剰余金を積み立てし、臨時の出費や財源不足が見込まれる場合に切り崩すために設けています。一般会計の基金には災害等不測の事態に備えておくための財政調整基金のほか、市債返済のための減債基金、特定の目的のための8つの基金があります。

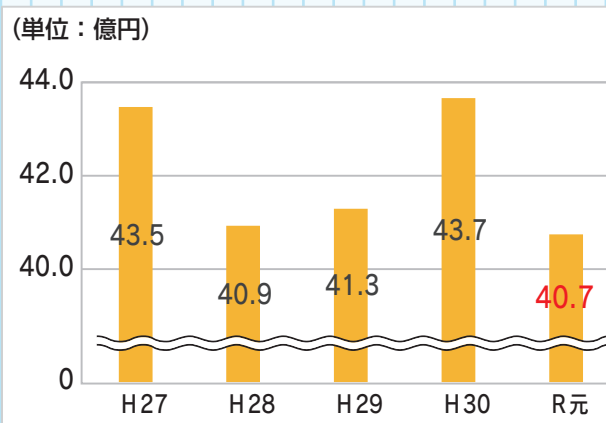
令和元年度末の一般会計の基金残高は、財政調整基金の取崩し等により、約3億円減少し40億7,450万円となりました。

市民1人当たりの基金残高は県内19市の中で2番目に少なく、潤沢にあるとはいえません。



市民1人当たりの貯金
約7万円

●一般会計の基金残高の推移



06 健全化判断比率

指標の上では健全な財政状況

国が定める健全化判断比率等については、いずれも早期健全化基準（イエローカード）を大きく下回っています。

健全化判断比率等	説明	茅野市	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計の赤字額の割合を示す指標。	－（赤字なし）	12.7%
連結実質赤字比率	特別会計、公営企業会計を含む全会計の赤字額の割合を示す指標。	－（赤字なし）	17.7%
実質公債費比率	借入金（地方債）の返済額（公債費）の割合を示す指標。	7.3%	25.0%
将来負担比率	借入金（地方債）の残高など将来負担すべき負担額の割合を示す指標。	60.1%	350.0%
資金不足比率	公営企業の資金不足の割合を示す指標。	－（資金不足なし）	20.0%

07 経常収支比率

茅野市は92.8%

経常的に収入する一般財源（使い道が自由な収入）に対して、毎年度経常的に支出しなければならない経費の割合

一般会計の経常収支比率は92.8%と県内19市の中でも最も高く、自由に使えるお金のほとんどを経常的に支出しなければならない経費が占めており、財政の硬直化が進んでいる状況といえます。これは、高齢者人口の増加による社会保障関連経費や公共施設の維持管理に係る経費などが年々増加していることによるものです。

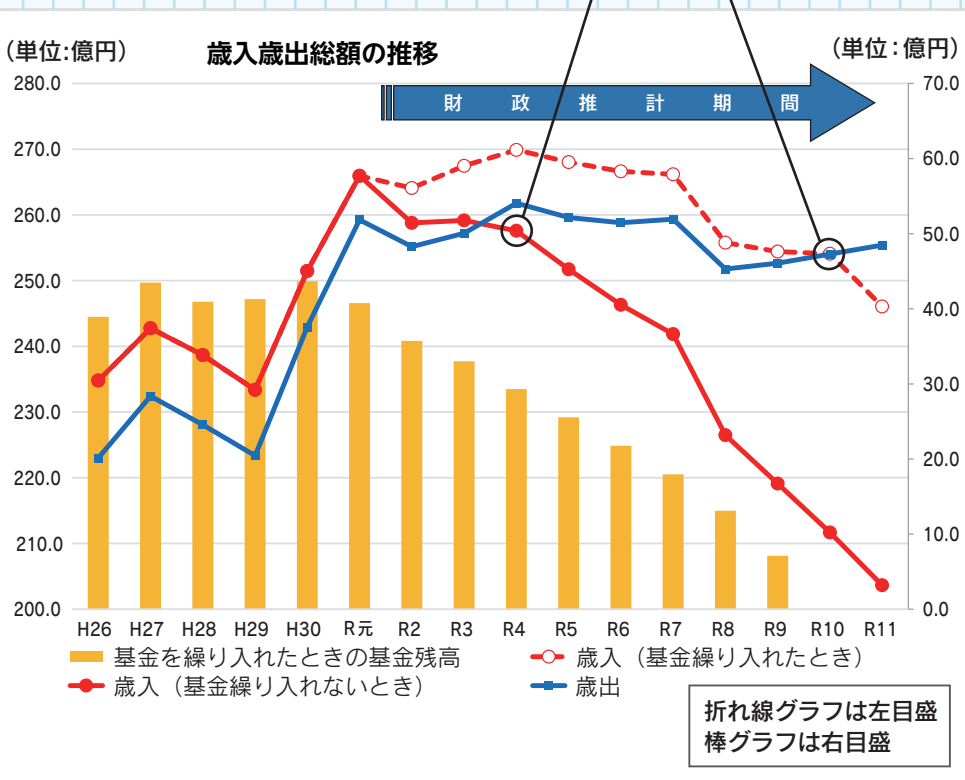
08 これからの茅野市の財政

このままでは令和10年度末には基金が底をついてしまいます。茅野市の財政の見通しを解説します。

基金の繰り入れをしなかった場合
R4年度に赤字
基金の繰り入れをした場合
R10年度に基金が底をつき
R11年度に赤字

令和元年度一般会計決算を基に、今後10年間に見込まれる必要な経費などを加え、財政推計をしたところ、引き続き財源不足を補うために基金の取崩しに頼った財政運営となり、令和10年度末には基金が底をついてしまう状況となりました。

これは、福祉、教育などの必要な経費については、今後も増加が見込まれる一方で、少子・高齢社会を迎えて、働く世代にあたる生産年齢人口が減少することで、市税収入等の増加が見込めないことが主な要因です。



09 これからも元気なまちであり続けるために

人口減少、少子・高齢社会を背景とした厳しい財政状況に陥らないようにするためには、生産年齢人口の減少に歯止めをかけ、茅野市の人口構造を変える必要があります。

そのために市は今後、多くの人々が往来する活気ある茅野市を目指して交流人口・関係人口を更に増加させることや、キャッシュレス化や遠隔教育・医療を推進して便利で暮らしやすい環境を整えるなど、将来を見据えた選ばれるまちに向けた取組を進めていきます。

また、限られた財源の中で、これまで茅野市が大切にしてきた福祉・環境・教育の取組を更に充実させながら、これらのまちづくりを進めるためには、その他の分野の行政サービスについて、見直さなければならない場合も十分に考えられます。

これからも財政の健全性を維持しながら、茅野市が元気なまちであり続けるために取り組んでいきますので、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

決算・財政に関する問い合わせ

企画財政課

財政係

☎72-2101 (内線154・155)